

神経内科専門医に聞く

富山労災病院 神経内科部長 **久保 雅寛**



H28年 新病院完成予想図

認知障害を起こす疾患

認知症を起こす疾患は100以上あると言われています。



圧倒的に多いのは「アルツハイマー病」です。2番目は、脳血管障害が原因の「血管性認知症」であることがわかっています。原因をひとつに特定するのが難しい「混合型認知症」と呼ばれるタイプも、比較的よく見られます。その他多い疾患としては、運動機能障害や幻視の症状が現れる「レビー小体型認知症」と性格の変化や特徴的な行動異常が見られる「前頭側頭型認知症」です。「慢性硬膜下血腫」や「正常圧水頭症」

などによっても認知症の症状が見られます。

また、「甲状腺機能低下症」や「ビタミンB12欠乏症」や「ビタミンB1欠乏症」、過度の飲酒による「アルコール脳症」、肝硬変末期に起こる「肝性脳症」など、様々な内科的疾患でも認知症の症状が見られます。

「慢性硬膜下血腫」や「正常圧水頭症」、「甲状腺機能低下症」、「ビタミン欠乏症」などによる認知症は、適切な診断と治療により、認知症の症状の改善が期待できる疾患です。完治できる認知症は、アルツハイマー病を100とすると5くらいの割合で見られます。

認知症かなと思ったら、治療可能な疾患が隠れていないかを調べておくことが必要です。また、アルツハイマー病やレビー小体型病など徐々に進行する認知症では、根治治療はまだみつかりませんが、適切な時期に適切な治療を行うことで、症状の進行を抑えることができることが知られています。薬物療法だけでなく、日常生活の改善、適切なケアやリハビリテーションなど非薬物療法も効果がみられることも広く知られてきました。単純な物忘れでなく出来事があったこと自体を忘れていたり、いつも通っているはずの道を繰り返し間違えたり、極端な性格の変化が起きたり、妄想がみられたりしたら、医療機関を受診してください。ご本人が受診したからないときは、ご家族だけで一度相談にきていただき、どう対応すればうまく受診してくれそうかなど話し合うことも可能です。ご自分やご家族が認知症と診断されるのは、つらいことと思いますが、状況を正しく把握して、よりよい生活を保とうとすることが大事です。

認知症は、ご本人やご家族だけで対応するのではなく、医療機関、福祉・介護、地域住民全体で見えていくことが望ましい病気です。

このための入り口として、医療機関を使っただけでよいと思います。

＜健康診断部では、「精密検査必要」と言われた方の受診予約（電話）を受けています。＞

待ち時間が少なく、スムーズに受診を受けられます。特にお仕事をされている方、多忙な方はどうぞ地域医療連携室（下記）にご連絡ください。

直通 0765-22-1354（平日9:00～16:00）

富山労災病院では、緊急に受診を希望される方の受付を行っています。

症状を自覚した時、夜間・休日の救急外来の時間まで待たずに来院してください。

事前に電話されるとスムーズに診療できます。

電話 0765-22-1280（病院代表）